

2006.12.25



白門技術士会

ニュースレター vol.2

会員の皆様へ

本会は、会員相互の親睦、母校の発展への貢献、技術能力開発に関する活動の実施を目的として2004年6月に設立されました。今年で丸2年が過ぎ、これまで年に一度の総会をはじめ、研修会、他大学との交流などを積極的に行ってきました。

このニュースレターは、昨年第1号を発送し、今回が第2号となります。会の活動内容とともに、会員個人の活動についてもお知らせし、会員相互の情報交換を行っていききたいと思います。

研修会・講演会

技術者倫理をテーマとした研修会をシリーズ化しており、今年に入って3回の研修会を行いました。また、中央大学、武蔵野工業大学、早稲田大学の三大学の合同講演会を実施しました。

日時	研修会・講演会	講師	場所
2006/1/31	下水汚泥減量化	(株)サピエナント松本社長	日本技術士会
2006/3/3	技術者倫理崩壊のメカニズム	(株)ビューポイント荒木社長	日本技術士会
2006/5/15	三大学技術士会合同講演会	武蔵野工業大学高木教授 (有)佐藤R&D佐藤氏	日本技術士会
2006/6/24	白門技術士会第2回定例総会特別講演	中央大学知財戦略本部岩崎氏	鹿島建設会議室
2006/9/15	技術者倫理-危険予知のテクニック	(株)ビューポイント荒木社長	日本技術士会
2006/10/5	理系女子学生のためのキャリアアップセミナー	白門技術士会笹尾ほか	中央大学
2006/11/20	技術者倫理-心理面からのアプローチ	目白大学川端助教授	日本技術士会

ホームページの立ち上げ

待望のホームページが近々立ち上がります。外部の方へは会の存在を広くアピールし、会員の皆様には幹事会をはじめ、会の活動内容などを随時お知らせすることができるようになります。来年の1月開始予定ですので、乞うご期待！

山梨の近代土木遺産について

会員の中には土木工学科出身の方も多いと思いますが、日々の業務に追われて土木の歴史に触れる機会は多くないのでは。先日、山梨県甲州市勝沼にあるトンネルを利用したワインカーヴなどを見学してきましたので、簡単にご報告します。

このトンネルワインカーヴは、土木学会誌 1月号でも紹介されており、廃止されたJR中央本線の旧深沢トンネルを勝沼町がJRより譲り受け、「勝沼トンネルワインカーヴ」として再生したものです。レンガ造りの風格あるトンネルは、ワインカーヴにぴったりの雰囲気を持っています。勝沼はぶどうで有名ですが、日本にはじめてワインを持ち帰った2人の青年のうちの1人、土屋龍憲が作ったワインの貯槽施設「龍憲セラー」は、レンガ積みアーチ構造物の技術を応用したものです。

また、勝沼は勝沼堰堤や日川水制郡、祝橋、旧田中銀行博物館、宮崎第二醸造所など、近代土木遺産の多いところです。ぶらぶら散策していると、それらの土木遺産に簡単に出会うことができます。また、ワイナリーも多く、それぞれワインの味と作り方にはこだわりを持っているようです。土木遺産とぶどう、ワインの関わりも薄くはありません。ワイナリーを訪ねながら、土木遺産を巡る旅をしてみたいはいかがでしょうか。

(笹尾記)

《土木遺産について一言》

私は土木工学科卒業で、故郷が山梨県甲州市の塩山という所です。笹尾氏から山梨の土木遺産の話聞き、故郷のことでもあり、土木技術者の端くれとして感じたことがありましたので、一言述べてみたいと思います。

初めは故郷にそのように多くの土木遺産があることに大変驚きました。これまでも、きっと目にしていたに違いないのですが、土木遺産として観る目はまったくなかったのです。詳しい話を聞くうちにそれらの中に単なる観光施設ではなく、ワインの貯蔵庫として再利用されている鉄道トンネルがあることを知り、大変興味をもちました。と言うのも、私はこれまでいくつかのトンネル工事に関わる機会があり、技術者としてトンネルには思い入れがあるからです。このトンネルは防災強化の一環として新たなトンネルが築造されたために廃棄されたものだそうです。いずれにせよ、鉄道構造物としては使用できなくても、貯蔵庫として使用するためには、多くの面からの技術的判断があったはずで、古いものを壊して新たに造り変えたり、廃棄するのは簡単ですが、先人たちがその時代の最先端の技術を駆使して造りあげたものを何らかの形で延命させ、新たな時代に合った方法で使用し続けていくことは、今後の日本の社会資本のあり方を考える上での模範のような気がしました。同時に先人達への敬意の念を深く感じるとともに違う観点からものを観、考える態度の重要性を感じました。

これからは山梨を訪れた際にはワインを飲み歩くだけでなく、ぜひ古い土木構造物にも足を運んでみたいと思います。

(村田記)

情報募集

ニューズレターでは、会員のみなさまからの様々な情報をお待ちしています。研究や技術開発に関することはもちろん、楽しい趣味のお話などでも結構です。どんどん情報をお寄せください。